

1 単元名 文学作品を読みリーフレットを作って魅力を紹介しよう 「ごんぎつね」

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「自分の選んだ本の魅力を紹介するリーフレットを作る」ことを位置付けた。優れた情景描写や登場人物の行動や気持ちの変化、表現の工夫に触れ、感じたことをリーフレットにまとめて交流するという目的を設定することで、本単元でねらう「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」(C 読むことウ)及び「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」(C 読むことオ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1) 児童観 (*名)

- | |
|---|
| <p>○ 実態調査 (平成*年*月*日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の中に出てくる言葉や文章を引用して正しくあらすじが書けた児童…*名 ・言葉や文章を引用することができなかつたり内容が不十分だつたりした児童…*名 ・あらすじが全く書けない児童…*名 <p>○ アンケートによる意識調査 (平成*年*月*日実施)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 読書は好きですか。
好き(*名) どちらかという好き(*名) どちらかという嫌い(*名) 嫌い(*名) 2 物語を読んで、登場人物の気持ちの変化を読み取ることはできますか。
できる(*名) どちらかというできる(*名) どちらかというできない(*名) できない(*名) 3 物語を読んで、その話のあらすじが分かりますか。
分かる(*名) どちらかという分かる(*名) どちらかという分からない(*名) 分からない(*名) 4 物語を読んで、あらすじを人に説明することはできますか。
できる(*名) どちらかというできる(*名) どちらかというできない(*名) できない(*名) |
|---|

本学級の児童は、読書が好きな児童が多く、朝の読書の時間だけでなく、空いている時間があると本を持ち出し、意欲的に読む児童が多い。しかし、読後の感想等から、話のおもしろさや内容を正しく読み取ることができているかとなるとそうではない児童が多い。実態調査や意識調査においても、物語を読んで、あらすじが分かると思っている児童は多いが、それを文章に表したり、人に説明したりすることに苦手意識をもっていることがうかがえる。

(2) 教材観

児童は、1学期に「白いぼうし」、「一つの花」の教材で、場面の移り変わりに即しながら登場人物の性格や気持ち、情景などについて読むことを学習している。それを受け、本単元では、場面の移り変わりに即して登場人物の行動や気持ち、関係の変化を考える学習をする。

本教材は、童話作家新美南吉氏の代表作であり、ひとりぼっちの小ぎつね「ごん」と「兵十」との心のすれ違いを、美しい情景描写を背景に描き出された作品である。物語は、六つのまとまりから構成されており、1から5の場面までは「ごん」の視点で書かれ、6の場面では「兵十」に視点を変換されている。そのため、児童は一人の読み手として、場面の移り変わりを通して、ごんの視点に立ったり、兵十の視点に立ったりしながら登場人物の性格や心情の変化を

想像しながら読むことができる。また、「ごん」のひたむきな思いや行動に、児童は寄り添いながら物語に引き込まれ、読むことの楽しさを味わい、さらに読みを広げていこうとする意欲をもつのに適した教材だと考える。

(3) 指導観

目的に応じ、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像する力を育てたいと考え、本単元を貫く言語活動として、「自分の選んだ本の魅力を紹介するリーフレット」を作成する。まず、第一次として、リーフレットのモデル提示をし、自分の選んだ本の魅力を紹介するために、並行読書をする話を話し、学習の見通しをもつことができるようにする。第二次として、「ごんぎつね」を読み、登場人物の性格や行動、気持ちの変化を中心に詳しく読み取る。この時、着目する言葉や文章の視点を明確にしたり、場面ごとの「関連図シート」を活用したりしながら、登場人物の気持ちの変化を読み取れるようにする。また、それを基にグループで交流する場を設定し、感じ方の違いに気付かせる。最後に、第三次として、第二次で学んだ読み取りの仕方を生かして、自分の選んだ本の魅力を紹介するリーフレット作りを行う。これらの学習活動を通して、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像する力を育てることができると思う。

4 単元の目標

- 進んで物語を読み、自分の考えや思ったことを話し合ったり書いたりしようとする。
(関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などを叙述を基に想像しながら読むことができる。
(読むこと)
- 物語を読んで、読み取った内容について自分の考えをもち、友達と感想を交流することができる。
(読むこと)
- 物語で使われている様々な表現方法や語りの文体について理解することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・進んで作品を読み、読み取ったことを話し合ったりリーフレットに表現したりしようとしている。	・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化を読み取っている。 ・物語を読んで考えたことを交流し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。	・登場人物の性格や気持ちの変化、行動を表している様々な方法について理解している。

6 学習計画 (13 時間扱い)

次	時	主な学習活動	リーフレット	主な評価
一	1	○ リーフレットのモデルを提示して、単元のめあてを確認し、見通しをもつ。 ○ 「ごんぎつね」を読み、大まかな内容を捉え、初発の感想とあらすじを書く。		○ リーフレット作りに関心をもち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (国語への関心・意欲・態度) ○ 興味をもって物語を読み、感想を書こうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)

	2	○ 並行読書で新美南吉やきつねが出てくる作品を読む。	自分の本を選ぶ	○ 目的に応じて、幅広く読書をしようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
	3	○ 初発の感想から学習課題を設定し、学習計画を話し合う。		○ 互いの感想から意欲的に学習課題を見出そうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
二	4	○ 1の場面を読み、いたづらをす るごんやごんに対する兵十の気持 ちについて考え、関連図シートに まとめる。	登場人物 の性格	○ ごんの気持ちを境遇と関連付けながら 読んだり、会話文に着目して兵十の気持 ちを考えたりしている。(読む能力)
	5	○ 2の場面を読み、ごんの気持ち の変化について考え、関連図シー トにまとめる。	登場人物 の気持ち の変化	○ 登場人物の気持ちや性格を読み取るこ とを通して、複合動詞のよさに気付いて いる。(言語についての知識・理解・技能)
	6	○ 3の場面を読み、つぐないをす るごんの気持ちや兵十の気持ちに ついて考え、関連図シートにまと める。		○ 葬列の様子を情景描写を基に読み取る とともに、いたづらを後悔するごんの気 持ちを想像しながら読んでいる。 (読む能力)
	7	○ 4, 5の場面を読み、兵十と加 助の会話を聞いたごんの気持ちや 不思議なことが起きている兵十の 気持ちを考え関連図シートにまと める。		○ ごんのつぐないの行動を読み取り、ご んの気持ちや兵十の気持ちを前の場面と の関連付けながら読んでいる。 (読む能力)
	8	○ 6の場面を読み、ごんに対する 兵十の気持ちやうなずいたごんの 気持ちを考え、関連図シートにま とめる。		○ 2人の会話を聞いているごんの様子か ら、兵十に気付いてもらいたいというご んの心情を読み取っている。(読む能力)
本時	8	○ 6の場面を読み、ごんに対する 兵十の気持ちやうなずいたごんの 気持ちを考え、関連図シートにま とめる。		○ ごんに対する兵十の気持ちの変化やう なずいたときのごんの気持ちを読み取っ ている。(読む能力)
	9	○ 物語全体を振り返り、ごんと兵 十の気持ちの変化や人物像をまと める。	登場人物 の性格	○ 登場人物の気持ちの変化を読み取るこ とを通して、倒置法や呼称の変化などの 表現方法のおもしろさに気付いている。 (言語についての知識・理解・技能)
三	10	○ 印象に残った場面や並行読書で	リーフレット	○ 場面の移り変わりや登場人物の性格や 気持ちの変化を読み取り、自分の考えを 表現している。(読む能力)
	11	○ 選んだ作品の魅力をリーフレット	作り	○ 互いの考えの共通点と相違点に気付 きながら交流している。(読む能力)
	12	○ にまとめ完成させる。		
	13	○ 完成したリーフレットを紹介し、 交流する。		

7 本時の学習

(1) 目標

- 叙述を基に読むことを通して、ごんに対する兵十の気持ちの変化やうなずいたときのごんの気持ちを読み取ることができる。(読むこと)

- 登場人物の気持ちの変化を読み取ることを通して、倒置法や呼称の変化など表現方法のおもしろさに気付くことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(2) 準備・資料

挿絵，1～5の場面で学習したときの掲示物，ワークシート，シール，付箋紙，発表用紙
本文を拡大した物（掲示用），短冊カード

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 前時の学習内容を想起し，本時の学習課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりぼっちの小ぎつね ・いたずらが好きでぬすつとぎつね ・やさしいところもある <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ごんに対する兵十の気持ちやうなずいたごんの気持ちを考えよう。</p> </div> <p>2 本文の6の場面を読み，ごんや兵十の気持ちを考える。</p> <p>(1) 一人読み</p> <p>①行動や会話文に着目しながら，気持ちや様子が分かる部分に線を引いたりシールを貼ったりする。</p> <p>〈ごん〉黄色シール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その明るる日も，～出かけました。 ・こっそり中へ ・ごんは，ぐったりと～うなずきました。 <p>〈兵十〉青シール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぬすみやがったあのごんぎつねめが ・ごんを，ドンとうちました。 ・「ごん，おまいだったのか，いつもくりをくれたのは。」 ・兵十は，火なわじゅうをばたりと取り落としました。 <p>②読み取ったことをもとに相関図シートを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごん，うってしまってすまない。 ・ごん，死なないでくれ。 ・兵十が，つぐないに気付いてくれてよかった。 ・うなぎをぬすんでしまってごめんなさい。 <p>(2) グループでごんや兵十の気持ちの変化を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人のグループで考えを交流し，グループの相関図シートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～5の場面で使用した掲示物や相関図シートを教室に掲示し，これまで自分たちが読み取ってきた登場人物の性格や気持ちの変化を想起できるようにする。 ・読む活動がリーフレット作りにつながることをリーフレットを提示しながら説明し，学習意欲を高める。 ・単元の学習計画表や1単位時間ごとの流れを提示することで，本時の学習課題をつかんだり見通しがもてたりできるようにする。 ・教師の朗読を聞きながら，ごんや兵十の気持ちを探る手がかりとなる文章に鉛筆で線を引かせ，注目させる。 ・1から5の場面で手がかりとしてきた，「行動」「会話」「情景」のキーワードを明示し，読み取りが苦手な児童には，見付けやすい会話文に注目できるようにする。 ・見つけた文章にごんと兵十で色分けしたシールを貼ることで，6の場面は，兵十の視点で描かれていることに気付くようにする。 ・早く終わった児童には，文章から読み取れるごんや兵十の気持ちを付箋に書くように助言する。 ・兵十のごんに対する呼び方の変化（ごんぎつねめ→ごん→おまい）に着目できた児童を称賛し，どのような気持ちの変化の表れか考えるように助言する。 ・1から5の場面までの相関図シートと比べながら考えるように助言し，兵十の気持ちの変化に気付くようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>㊦ ごんに対する兵十の気持ちやうなずいたごんの気持ちを叙述を基に読み取っている。(読む能力：観察，ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・司会をたてることで，交流がスムーズに進むようにする。

3 読み取ったごんや兵十の気持ちについて、全体で話し合う。

- ・最初は、ごんをうとうと思ったけれど、いつもくりをくれていたのはごんだということに気付いて、うったことを後悔している。
- ・ごんは、うたれてしまったけれど、兵十にくりを持っていったのは自分だと気付いてもらえてよかったと思っている。

4 本時の学習を自分の選んだ本で参考にできるところはないかを考える。

- ・人間は怖いと思っていたけれど、優しかった。
(手ぶくろを買いに)
- ・自分だけが悲しみをもっていると思っていたけれど、悲しみは自分だけじゃないと気付いた。
(でんでん虫のかなしみ)

5 本時の学習を振り返る。

- ・最後に兵十がごんの気持ちに気付いてくれてよかった。
- ・言葉の表し方で、気持ちの伝わり方が違うということが分かった。

・各自で記入した付箋や考えを持ち寄り、そう考えた理由と合わせて交流するように助言する。

・どの文章に着目して気持ちを考えたのかや友達との相違点などを合わせて発表することを助言する。

㊦ 交流することを通して、倒置法や呼称の変化の表現方法のおもしろさに気付いている。

(言語についての知識・理解・技能：観察、ワークシート)

・自分の選んだ本を手元に置いておき、読み直して参考にできる部分に付箋を貼ったり、下書き用リーフレットに書きこんだりできるようにする。

・本時の学習を生かして、登場人物の気持ちの変化を読み取れている児童を称賛する。

・学習課題に対する振り返りを書くように助言する。

・次時は、ごんと兵十の気持ちの変化や人物像をまとめることを伝える。